

# 子どもの貧困対策プロジェクト報告資料

---

平成28年6月  
日本財団

# 1 . 概要

# 子ども支援事業を一体化した「日本財団子どもサポートプロジェクト」を発足、子どもの貧困対策に50億円拠出

## (1) 日本財団子どもサポートプロジェクト



特別養子縁組支援

難病児支援

異才発掘  
プロジェクト

子どもの  
貧困対策  
プロジェクト  
(本日発表)

不登校児支援

学校外教育支援

施設出身者への  
奨学金

子どもの貧困対策に50億円を拠出

# 子どもの貧困問題は、経済への影響大 誰にとっても「ジブンゴト」

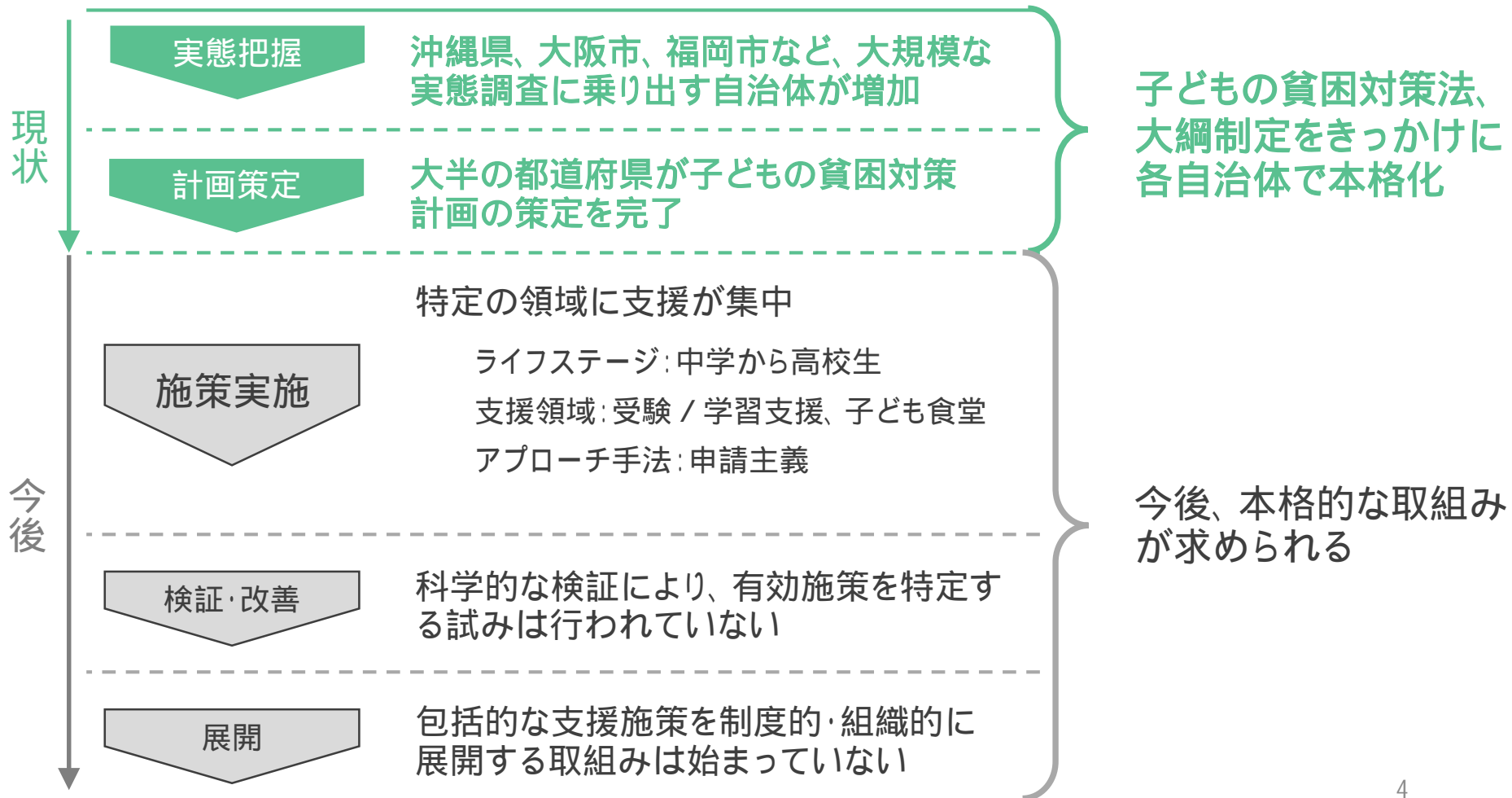
## (2) 子どもの貧困問題の重要性

子どもの貧困の社会的損失推計( 現在15歳の1学年のみ)

	所得	政府収入	正規職	
シナリオ 現状	22.6兆円	5.7兆円	8.1万人	国内市場の縮小 労働生産性 / 参加率の低下 社会保障負担の増加
シナリオ 改善	25.5兆円	6.8兆円	9.0万人	
① 差分 ②	-2.9兆円	-1.1兆円	-0.9万人	

# 政府・自治体の動きも本格化しつつある。今後は施策実施、検証、展開が重要

## (3) 子どもの貧困対策の現状



# 各分野のリーディングプレイヤーと協働し、貧困の連鎖を断つ解決策を検証。全国に100拠点展開

---

## (4) 日本財団の子どもの貧困対策

リーディングプレイヤーで構成する  
プロジェクトチームの組成

家でも学校でもない「第三の居場所」  
全国100拠点設置

貧困の連鎖を断つ解決策の検証

# ベネッセを中心とする各分野の第一人者でチームを構成。 今後、パートナーを順次拡大

## (5) プロジェクトチーム

全体コーディネート: 日本財団

現在のチーム



## 2 . コンセプト



# 主なコンセプトは、社会的相続の補完・地域チーム体制による支援・施策の検証の3つ

---

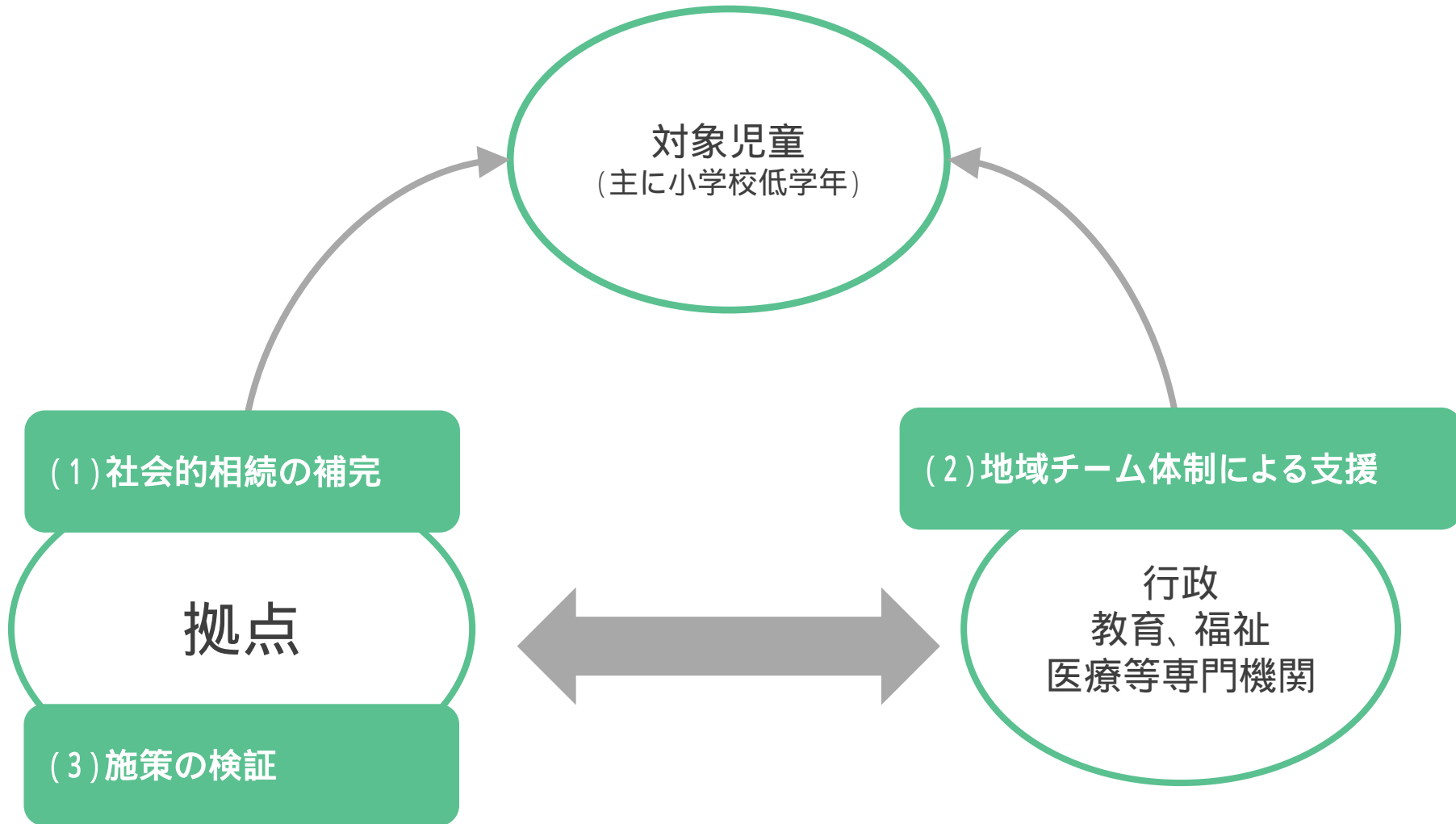
## コンセプト

(1) 低年齢層に対し、「社会的相続」を補完する拠点を設ける

(2) 地域チーム体制で子どもを支援する

(3) エビデンスに基づいて施策を検証し、有効施策を特定する

# コンセプトの関係性



# (1) 社会的相続の補完

# 「社会的相続」は、国内外の研究者より、貧困の連鎖の重要な要素として指摘されている

## (1)-1 社会的相続とは？

### 社会的相続

- 社会的相続とは、「自立する力」の伝達行為
- エスピン＝アンデルセンは、従来の所得のみに注目した議論を批判し、家庭内における社会的相続こそが格差の根底にあると指摘
- 日本国内でも、長期パネル調査を用いて、社会的相続の影響を分析した例あり

“社会的相続は、所得と同等かそれ以上に重要である。”

“社会的相続の不平等が解消されない限り、機会の不平等は激化してゆく。”

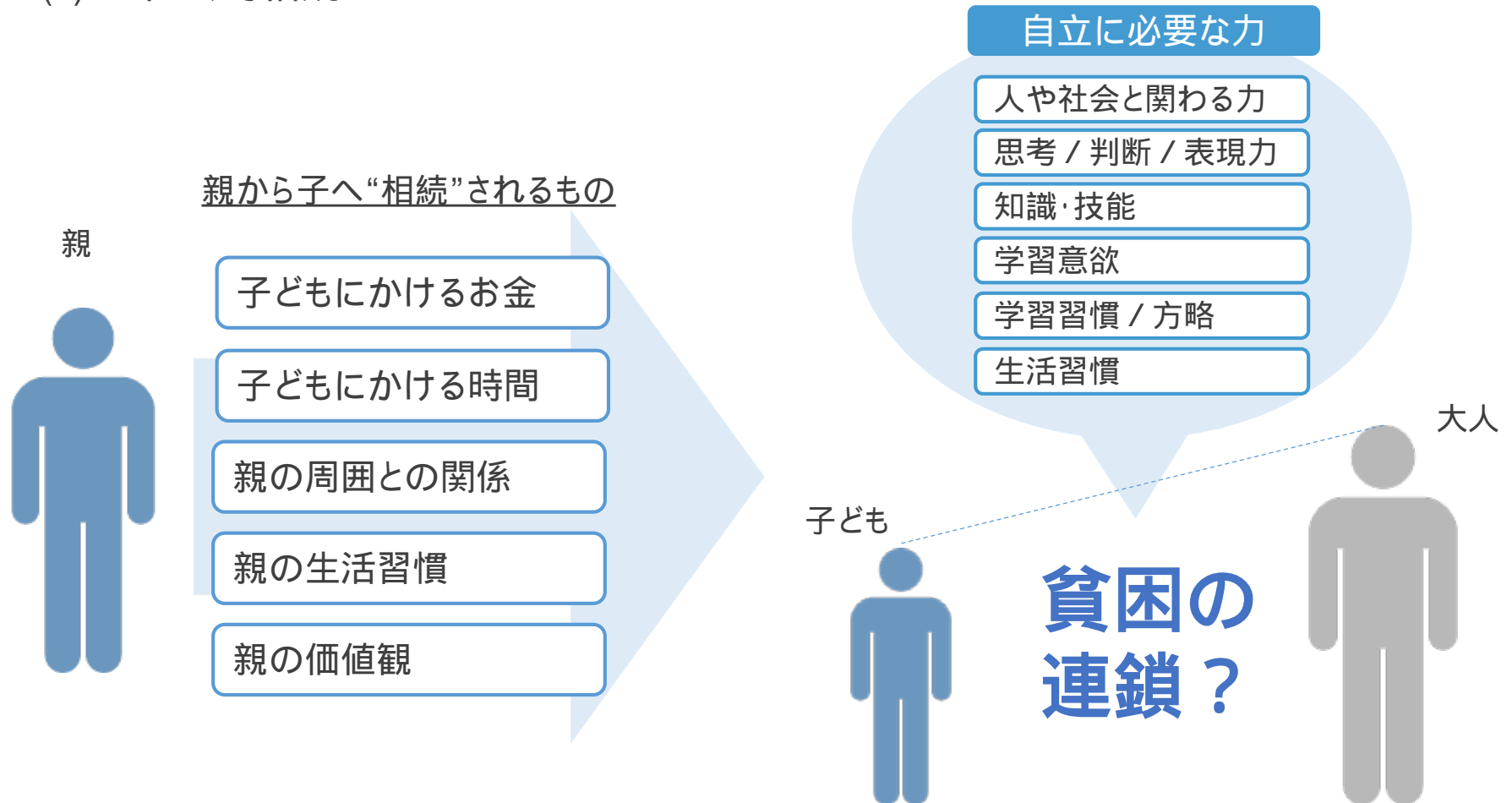
ポンペウ・ファブラ大学政治社会学部  
Gösta Esping-Andersen教授

“貧困の世代間連鎖を防止し、...社会的相続の不利を軽減するという視点にたてば、現金給付以外の配慮が行き届いたサービスの整備が急がれる。”

成蹊大学経済学部  
丸山桂教授

# 貧困を背景とした親から子への「負の社会的相続」が、将来の自立する力を奪う可能性(= 貧困の連鎖)

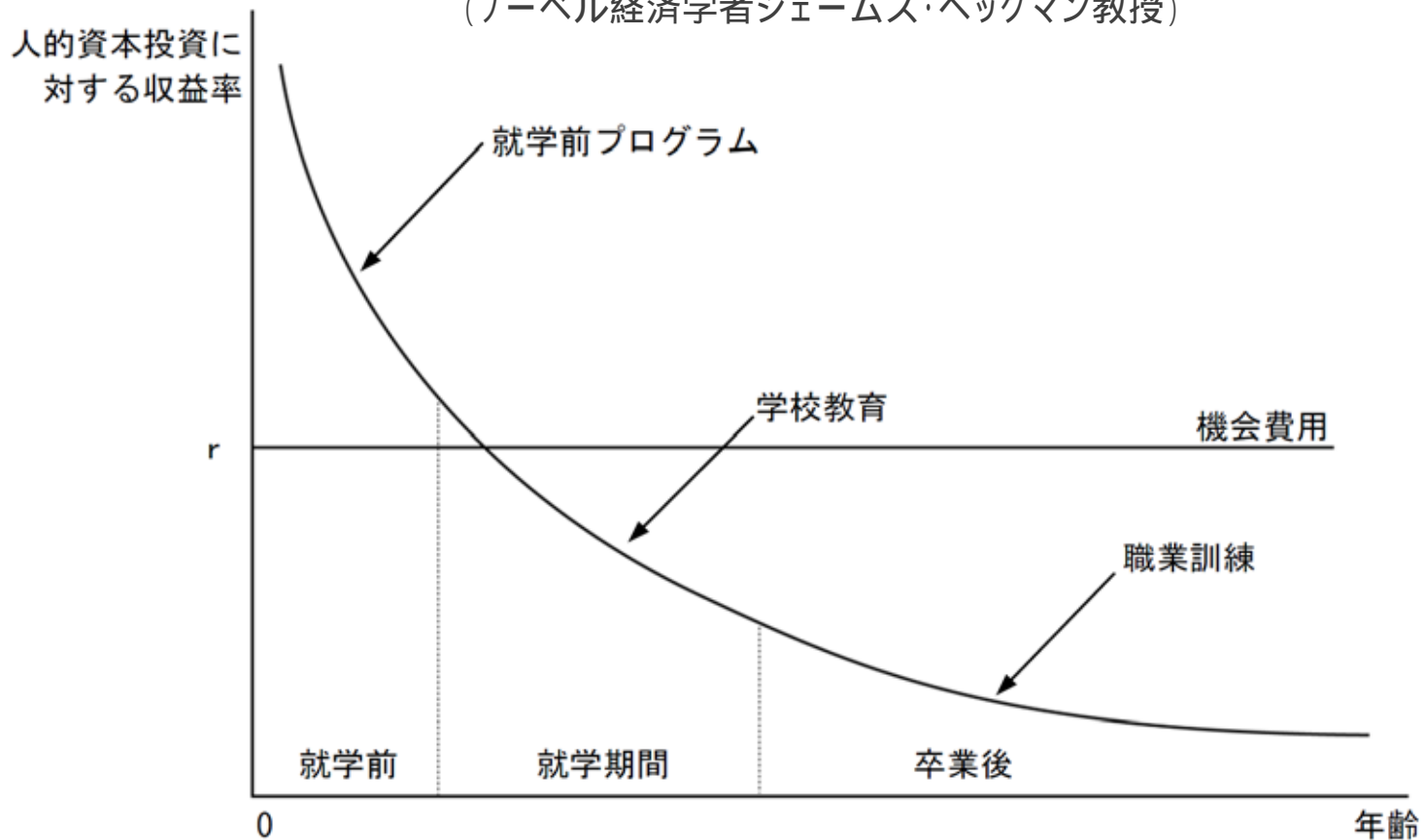
## (1)-2 社会的相続のイメージ



# 社会的相続は、低年齢期に行われれば行われるほど効果的である可能性が高い

## (1)-3 低年齢期に支援することの有効性

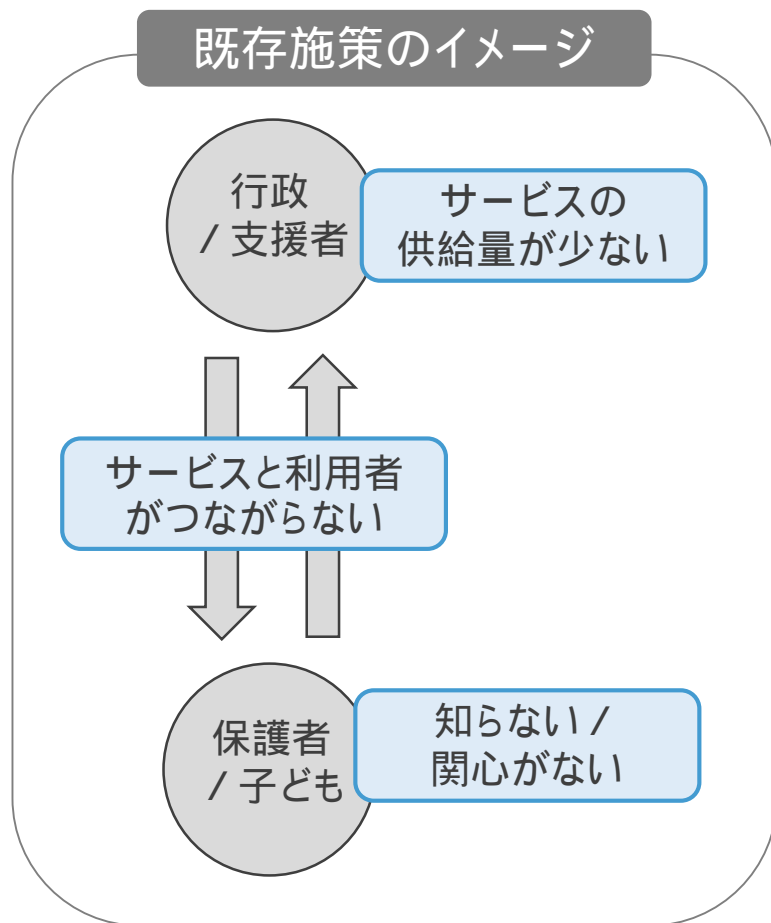
人的資本の投資対効果の推移モデル  
(ノーベル経済学者ジェームズ・ヘックマン教授)



## (2) 地域チーム体制による支援

# 「支援が必要な子どもほど支援の手が届きにくい」という課題を多くの支援者が抱えている

## (2)-1 既存支援サービスの課題



“生活保護を受給する15歳以下の子どもは1000人規模にいるが、学習支援教室に来ているのは数名のみ。”

自治体(関西地方)

“地域に繋ぎ手がいなければ、チラシを撒いたところで支援が必要な子どもは来ない。”

NPO団体(学習支援)

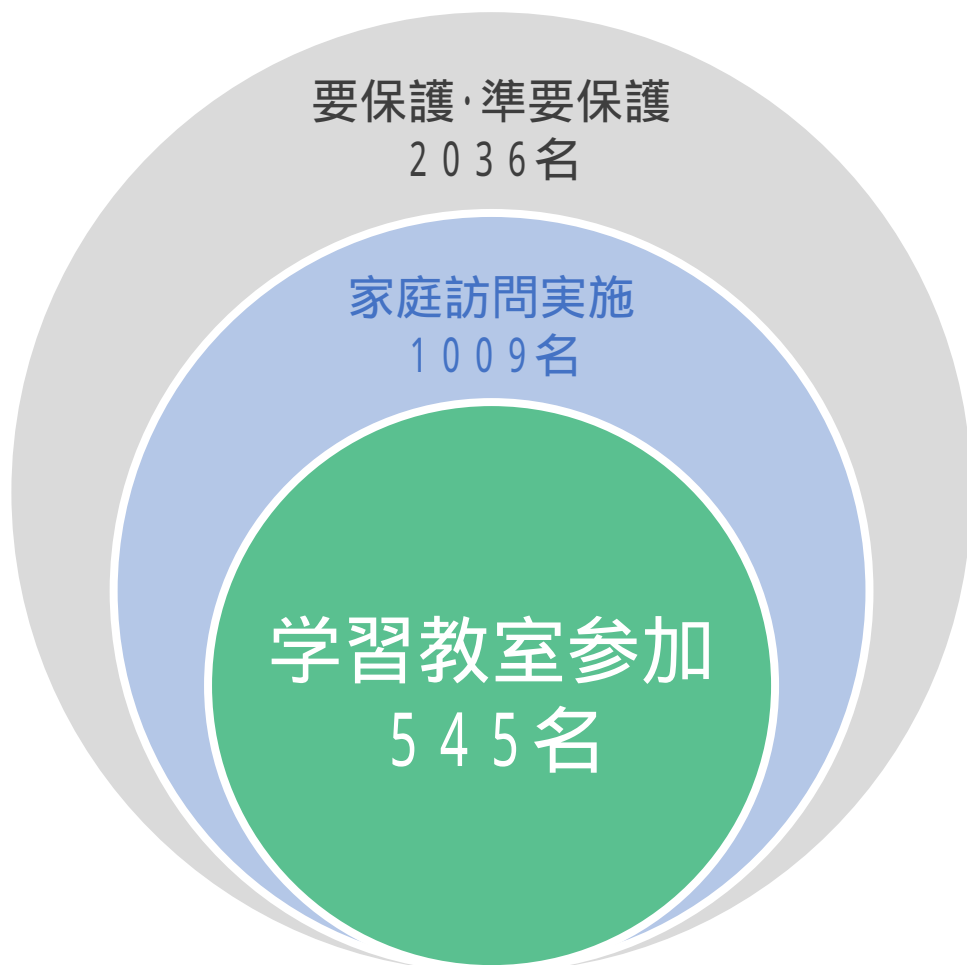
“支援をしようにも、そもそも親が関心がない、支援現場と接点を持たない、支援の必要性を認識していない。”

NPO団体(学習支援)



# 地域連携により、支援が必要な子どもに積極的なアウトリーチを行うことで、確実に支援を届けることが可能

## (2)-2 地域連携によるアウトリーチ事例



### アスポート事業(埼玉県)

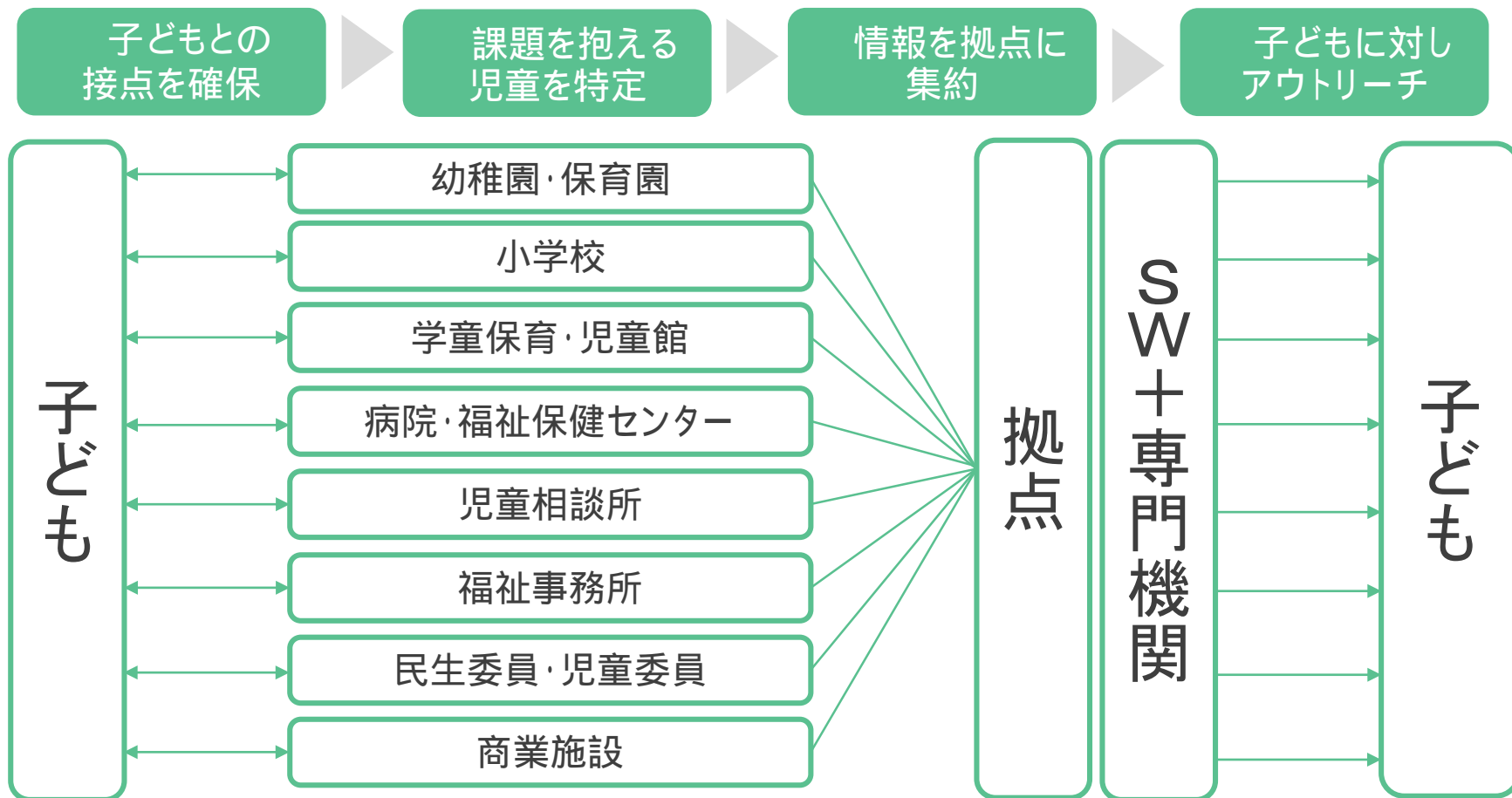
- 訪問の同意書を得た全家庭に、50名超の支援員が家庭訪問
- 勉強や生活の悩みを聞き、学習教室への参加を促進

5割もの子どもが学習支援に参加

高校進学率  
86.9% → 97.7%

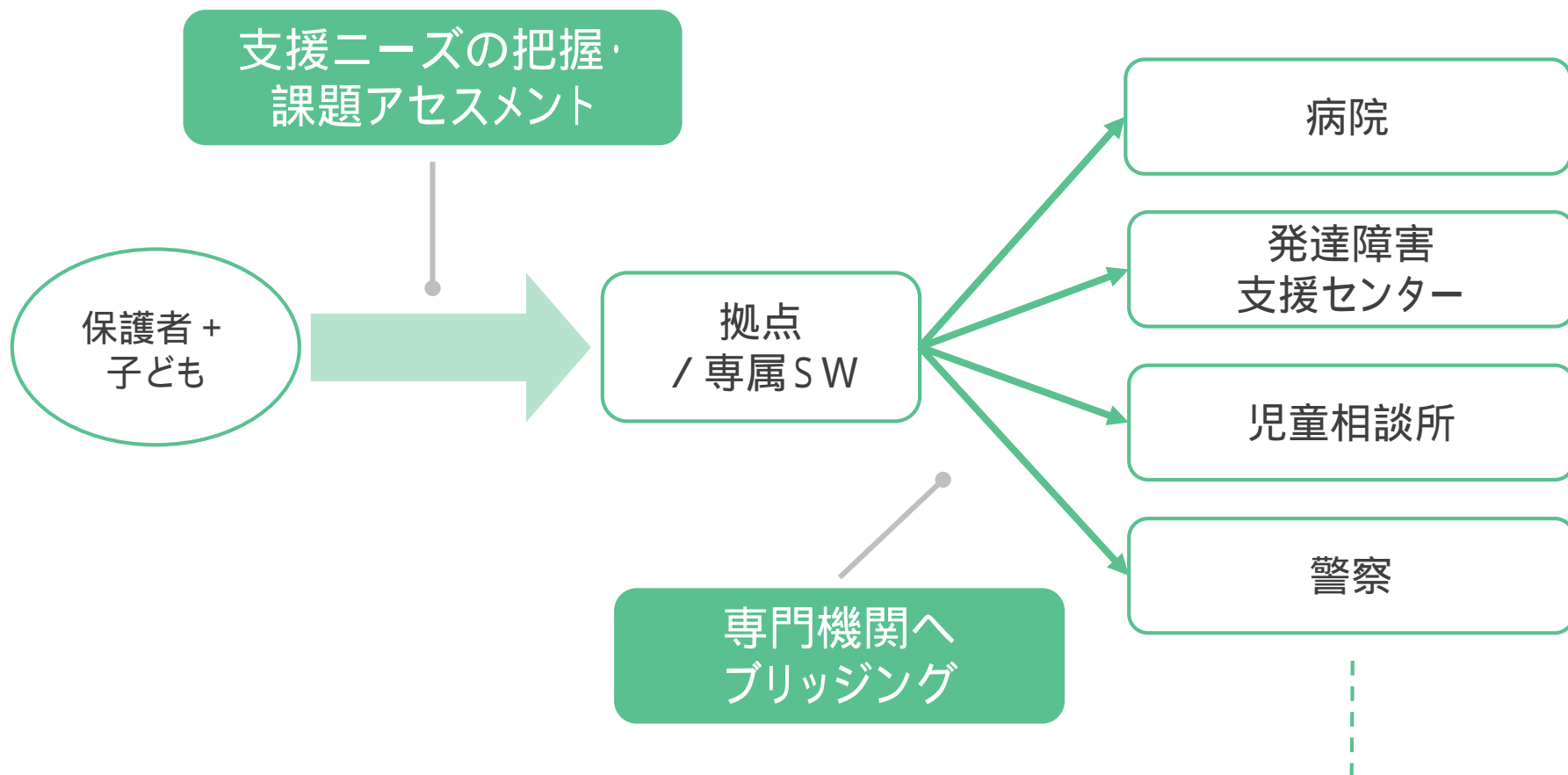
# 自治体・地域の連携により、支援が必要な子どもと幅広く接点を持ち、「アウトリーチ」を実施

## (2)-3 アウトリーチの実施イメージ



# 拠点で支援ニーズを把握し、拠点での対応が困難なケースは、地域連携による「ブリッジング」を実施

## (2)-4 ブリッジングの実施イメージ



# 貧困世帯は複合的・多層的な課題を抱えていることが多く、専門機関への「ブリッジング」が重要

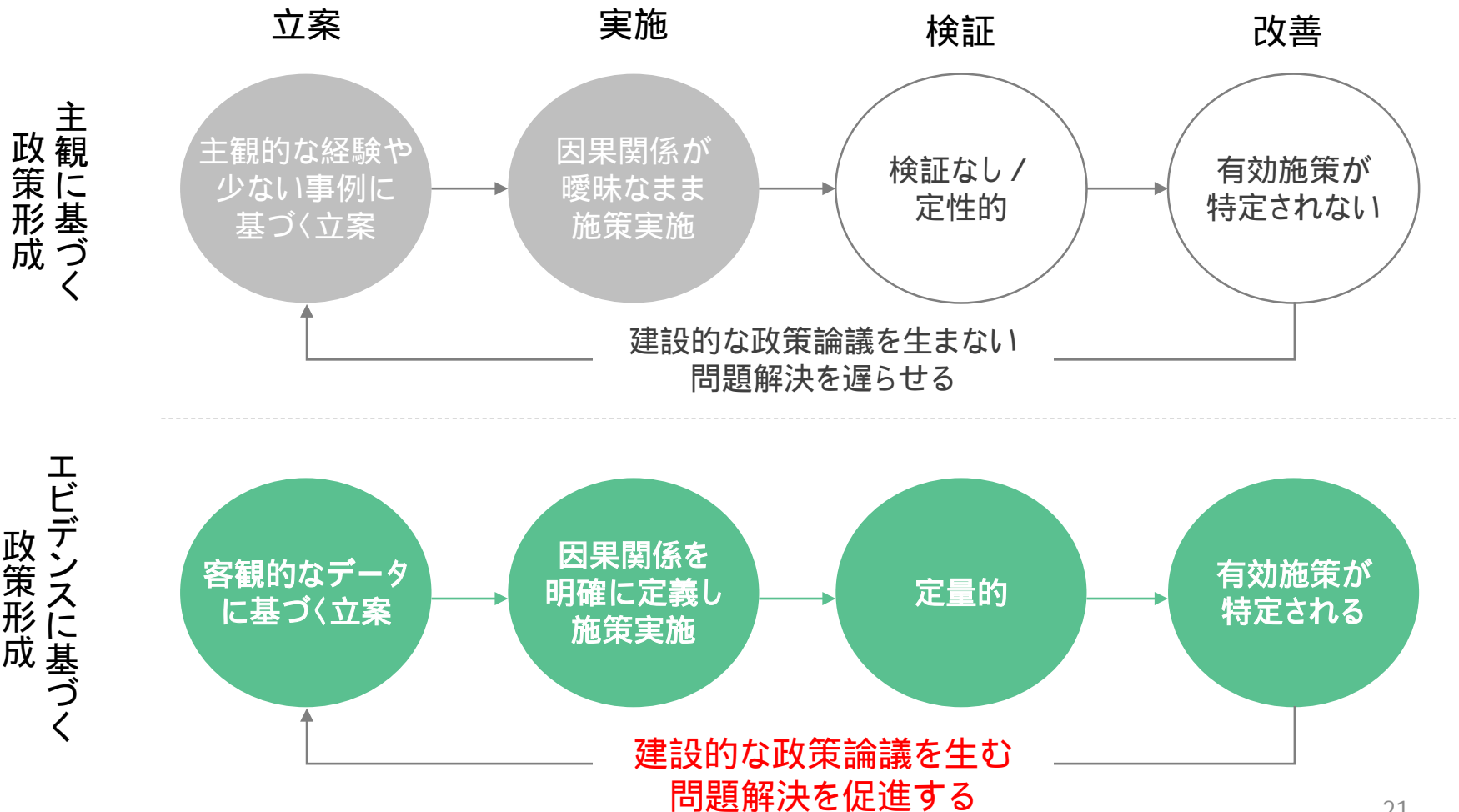
## (2)-5 貧困世帯の抱える課題の例

	福祉	教育	医療	司法
親	知的障害を抱えているため、各種支援の利用に困難を抱える	子どもの教育に時間とお金をかけない / かける事ができない	身体又は精神に疾病を抱え、満足に働くことができない	夫から家庭内暴力を受けている
子ども	発達障害を抱えており、学習や対人関係に課題が生じている	経済困窮のため、大学進学を諦めざるを得ない	病気やむし歯が放置され、健康状態が著しく悪化している	親から虐待を受けている

## (3) 施策の検証

# 主観ではなく、客観的なエビデンスに基づく政策形成が重要。検証によって有効施策を特定していく

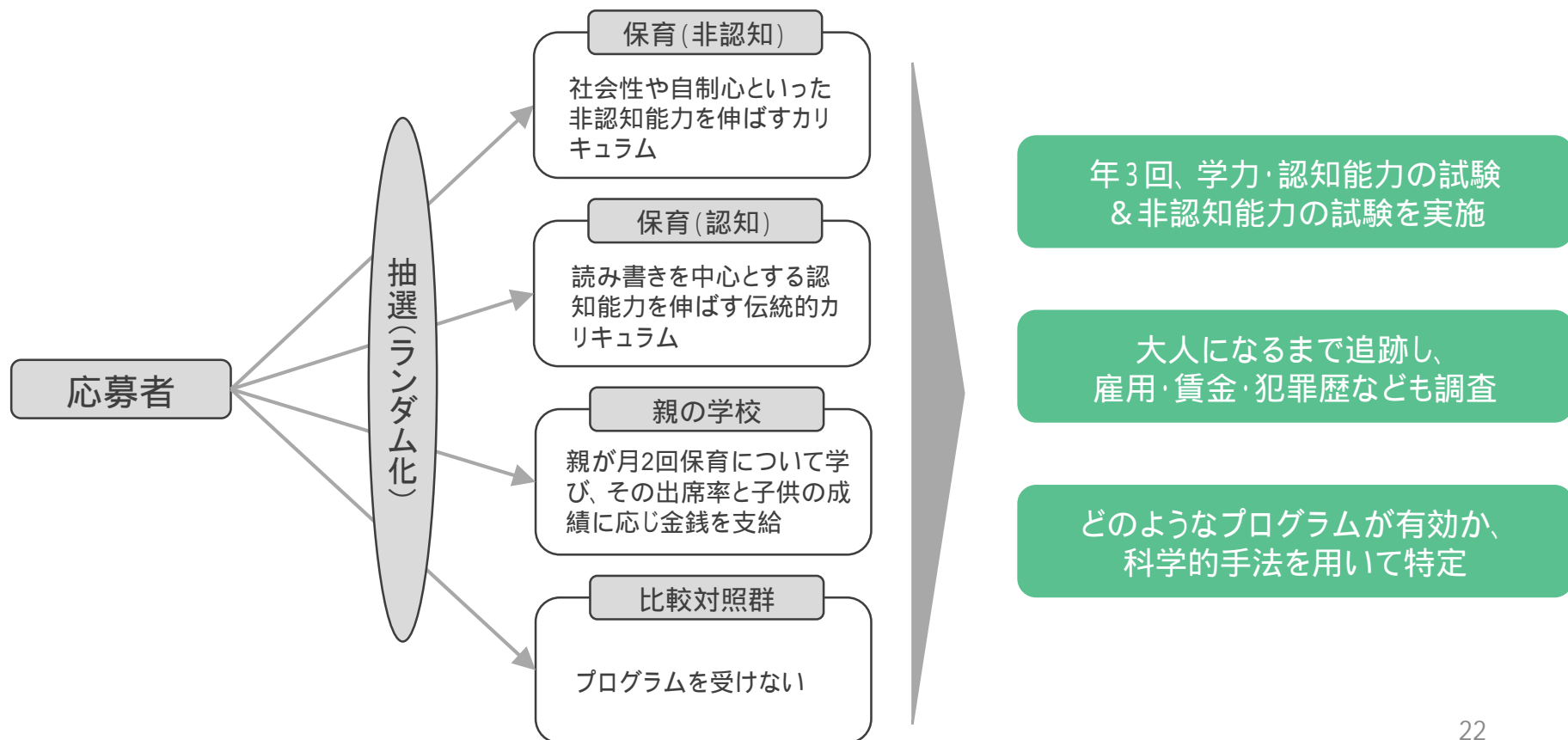
## (3)-1 より良い政策形成に向けて



# 諸外国では、子どもの貧困問題解決に積極的にエビデンスベースアプローチを取り入れている

## (3)-2 シカゴ大学ジョン・リスト教授の事例

- シカゴの貧困地域に無料の保育園を2カ所立ち上げ、どのような施策に効果があるのか科学的に検証



# 3 . 拠点での提供サービス



# 発達段階に応じた必要な環境を整え、拠点にて「社会的相続」を補完する

## 提供サービスの全体像(イメージ)

エリック・H・エリクソンのライフサイクル論

1歳

3歳

6歳

11歳

子どもの発達段階

乳児期  
基礎的信頼

幼児前期  
自律性

幼児後期  
積極性・自主性

学童期  
勤勉性

必要な環境・資源

信頼できる大人との1対1の関係

自己の発揮と、たとえ失敗しても受容される環境

他者との関わりによる社会規範を認識する機会

教養や知識の養成、目的へ挑戦する機会

拠点での提供サービス

現時点では、親子で利用できるスペースの提供を想定

学び要素

多様な社会との接点

個々の状況に応じた教科学習

「読書」をキーとしたコンテンツ

適切な生活習慣を養う働きかけ

一人ひとりの発達段階に応じた生活や学習への日々の適切な関わり

現場スタッフとの1対1の関係に基づく信頼関係

# 後の子どもの発達に大きく影響する可能性のある、 基本的信頼の関係構築に注力する

## (1) 1対1の関係づくり

### 1対1の関係の重要性

“基本的信頼こそが、健康なパーソナリティの根本をなす”

米発達心理学者(-1994) Erik Homburger Erikson

“一定の養育者との間での基本的信頼の獲得や愛着の形成が、その後の関係性の発達や精神発達課題に影響を及ぼす。”

児童精神科医、NPO法人PIECES代表 小澤いぶき

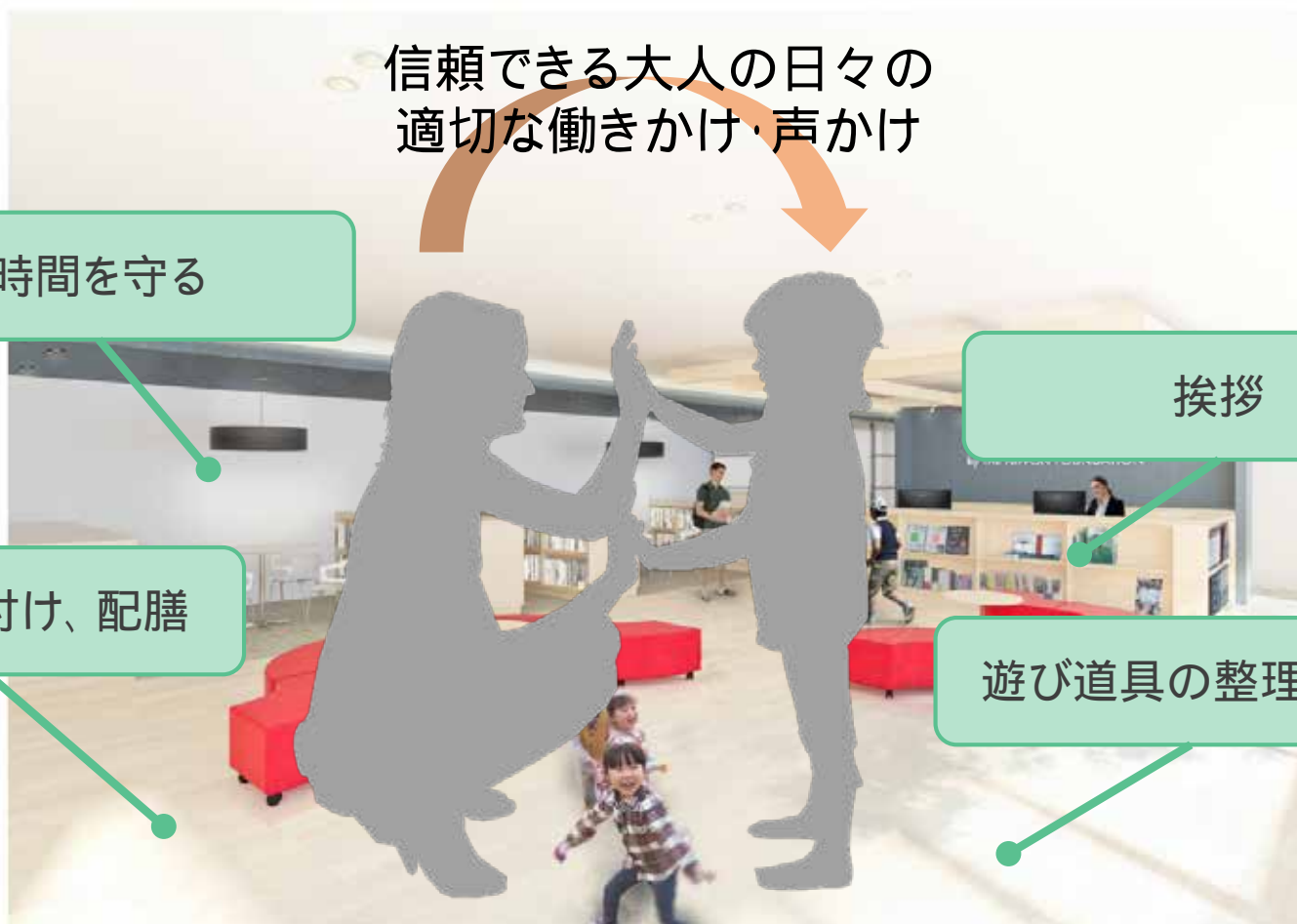
### より良い1対1の関係とは

- 子どもにとって、夢や不安など内面的なことを開示できる「安心・安全な」関係
- 子どもが「一番の相談相手」「あの人の私へ投げかけは信頼して受け取ることができる」と感ずることができる関係

子どもからの「安心」「信頼」を得るために、  
子ども目線で寄り添う専門スタッフを配置

# 拠点で過ごす時間や、スタッフとの関わりを通じ、基礎的な生活習慣を身につける機会を提供

## (2) 生活習慣の形成に向けて



# 将来の自立につながる学びの基礎を育む ～ キーコンテンツとして「読書」の可能性に着目～

## (3) -1 「読書/読み聞かせ」の重要性と可能性

- 「読み聞かせ」頻度が高いほど、学習意欲が高くなる

東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究  
「子どもの生活と学びに関する親子調査2015」より  
右グラフ参照

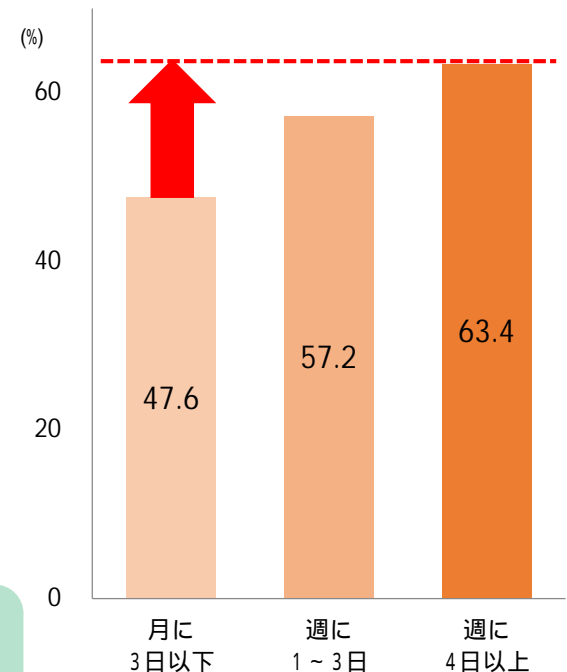
- 保護者から「本や絵本を読んでもらう」経験が入学した大学の偏差値と相関する

ベネッセ教育研究所  
「進路選択に関する振り返り調査」(2005年)の分析より

家庭での「読書」や「読み聞かせ」のような働きかけが、その後の学習意欲や学力に影響

拠点において、家庭の補完をすることで子どもの力を高めることができる可能性

入学前読み聞かせ頻度別「勉強が好き」な子どもの割合



小学1~3年の保護者(年収200万円未満)の回答  
お子様は「勉強」をどれくらい好きかを尋ねた設問  
で「とても好き」「まあ好き」と回答した人の合計  
入学前の絵本や本の読み聞かせの頻度を尋ねた設問  
で「ほとんど毎日」「週に4~5日」と回答した人  
を「週に4日以上」、「月に1~3日」「ほとんど  
していなかった」人を「月に3日以下」としている

# 「読書」を通して 学びの基礎となる力や学習への意欲を育む

## (3)-2 キーコンテンツ事例

### 「読書」を核としたプログラム・・・「ベネッセグリムスクール」

◇子どもたちが夢中になって取り組む、72種類の『作戦』と呼ばれる独自カリキュラム

◇「読む・書く・聞く・話す・考える」力を多面的に伸ばす

◇自分の気持ちを表現することへの自信や仲間をサポートする態度も自然に身につく



ベネッセ **グリムスクール** 

株式会社ベネッセコーポレーションと  
株式会社スプリックスの2社が共同で開発

# 4 . 今後の展開

## 第一号拠点の概要

項目	詳細
開設時期	2016年11月初旬
開設場所	埼玉県戸田市
主な利用者	小学校低学年(20名程度)
運営者	NPO法人Learning for All 一日あたりスタッフ4～5名、ボランティア4名  <i>Learning for All</i>
料金体系	世帯所得による応能負担 周辺の幼稚園・保育園・学童等の料金体系を参考に設定

# 第一号拠点は、検証に適した環境があり、連携体制を早期に構築可能な埼玉県戸田市を選択

## 第一号拠点設置地の選定理由

埼玉県・  
戸田市

- 戸田市は、日本財団、ベネッセと関係が既に形成されており、連携体制を早期に構築可能である
- 県独自の学力・学習状況調査を実施しており、また、市独自でもより詳細な分析を実施しているため、施策の効果検証が行いやすい

A小学校

- 戸田市内の全12小学校のうち、就学援助率が比較的高い傾向にある
- 本問題解決に向けた協力体制がある
- 近隣に事業を実施する条件に適した既存施設がある

子どもが通いやすい、A小学校の近隣地に拠点設置



開設・運営経費については当面は日本財団の資金で実施。将来的には基金や交付金等との連動を視野

日本財団

今後の連携先

日本財団  
子どもサポート  
プロジェクト



子どもの未来  
応援基金

地域子供の未来  
応援交付金

自治体独自  
予算等

家でも学校でもない「第三の居場所」

全国100拠点設置

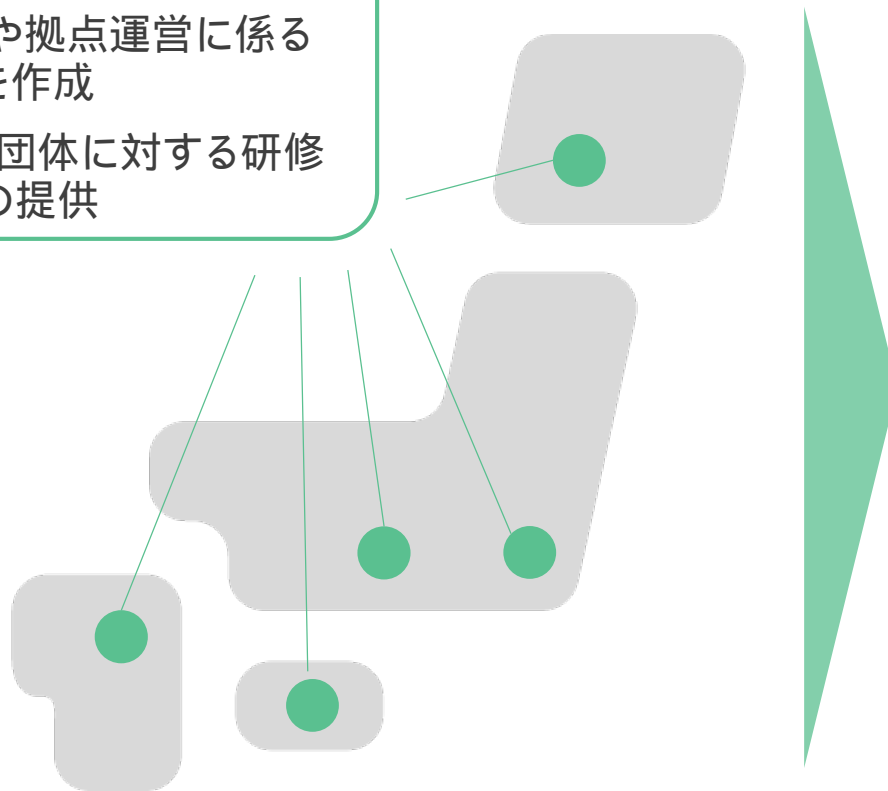
今秋を目処に自治体向け説明会を開催予定

# 初期に設置されたモデル拠点は、人材の育成拠点としても活用し、全国にモデル拠点の担い手を輩出

## 人材育成のイメージ

### 先行するモデル拠点

- 子ども支援や拠点運営に係るマニュアルを作成
- 新規人材 / 団体に対する研修プログラムの提供



担い手となる  
人材 / 団体の育成

全国のモデル拠点の  
質の維持・均質化

痛みも、希望も、未来も、共に。

Share the pain. Share the hope. Share the future.